日本語日本文化教育プログラムの 2024 年度の活動報告

【写真説明】言語学会夏期講座 2024 の様子

【活動概要】

日本語日本文化教育プログラム（以下、日本語日本文化）は、日本語・日本文化の研究および教育の振興と国際化を進展させるべく、研究・教育事業を展開している。教育面では、大学院生向けに学修プログラムを設定し、「日本語日本文化教育演習」「多文化理解演習」「日本語教育演習」「日本語教育内容」「日本語教育方法」「日本語研究」などの科目を提供している。このうち「日本語日本文化教育演習」では、7 月末から 3 週間にわたって「神戸大学夏期日本語・日本文化研究」において実習を行う。また若手研究者への教育の機会の提供として、日本語教育インターンシッププログラムを実施し、オックスフォード大学、ハンブルク大学、北京外国語大学などに、毎年数名の大学院生の派遣を継続している。

言語系の諸学会との連携にも努め、国立国語学研究所や日本言語学会、その他言語関連の学会と共同で国際シンポジウムやセミナー、外国人研究者による講演会などを開催している。2024 年度も日本言語学会と共催で「日本言語学会夏期講座 2024」、日本音声学会との共催で「第 34 回音声学セミナー」を開催した。また、海外の研究機関と協力し、国際シンポジウム、言語学コロキアムなどを開催した。このほか日本文化研究を促進するために古典籍デジタル化事業、日本文化に関する日英対訳の教科書の刊行（『日英対訳で読みひらく新しい日本文化史』、神戸大学出版会、2024 年 3 月）、対訳の教科書を基にリカレント教育としても活用できるオンデマンド教材の作などを実施している。

【活動内容】

本年も大学院生向けの学修プログラムを開講し、「日本語教育インターンシッププログラム」として北京外国語大学に博士課程前期課程 1 名、ハンブルク大学に博士課程前期課程 1 名、オックスフォード大学に博士課程前期課程 1 名、計 3 名を派遣した。

また国際シンポジウム・研究イベントとして、2024 年 8 月 26 日-31 日にかけて日本言語学会と共催で「日本言語学会夏期講座 2024」を開催（延べ 1000 人参加）した他、11 月 16 日に日本音声学会と共催で「第 34 回音声学セミナー」（参加者 100 名）を開催、さらに 2025 年 3 月 4 日-5 日に関西音韻論研究会・東京音韻論研究会との共催で「第 20 回音韻論フェスタ」（参加者 80 名）を開催した。

また国内外の協定機関とともに国際会議を例年、複数開催しており、2024 年 9 月 21 日には国際シンポジウム「第 3 回 Evidencial-Based Linguistics（EBL）」を国立国語研究所と共催で開催している。国内外の研究者との学術交流としては、「第 20 回音韻論フェスタ」に L. ラブリュヌ教授（ボルドー・モンテーニュ大学）を招聘した。